

# EU Indicators

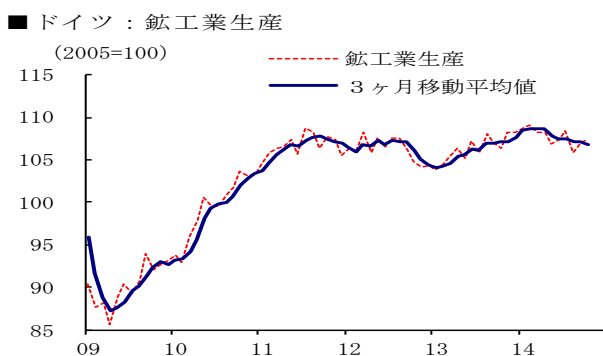
## 欧州経済指標コメント：10月ドイツ鉱工業生産・製造業受注

発表日：2014年12月9日(火)

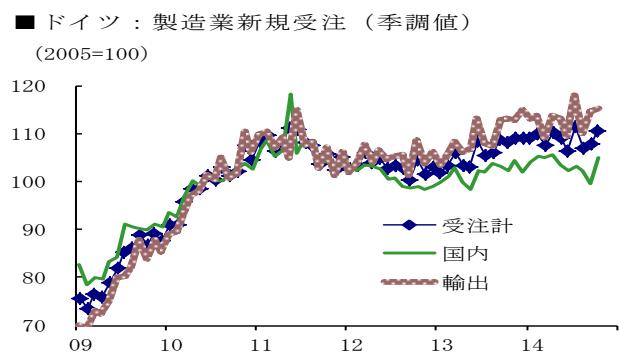
～受注反発は回復の萌芽となるか？～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

- 8日に発表された10月のドイツの鉱工業生産は前月比+0.2%と2ヶ月連続の増産を記録したが、9月が下方修正され(同+1.4%→同+1.1%)、力強さに欠ける内容。今年は例年に比べて夏季休暇の時期が後ずれした影響で統計の季節性が十分に除去できず、8月が大幅減(同▲2.3%)。9月の反発(同+1.1%)がそれほど大きくなかったため、一部は10月にずれ込んだとの見方もあった。だが、9・10月の反発は小幅なものにとどまり、昨年後半から今年前半にかけての水準を取り戻せずにいる。
- 業種別には、堅調な内需に支えられ消費財が増加(同+0.5%)、建設活動も3ヶ月振りに増加(同+1.4%)した一方で、資本財が落ち込んだ(同▲0.4%)。建設を除く鉱工業生産は同横這いと低迷。10月値は7-9月期平均対比で+0.2%と、過去2四半期の減産(4-6月期：前期比▲1.2%、7-9月期：同▲0.3%)から僅かに増産に転じたが、回復の勢いは緩慢なものにとどまっている。
- 5日に発表された10月の製造業受注が前月比+2.5%と大幅に反発。9月も同+0.8%→同+1.1%に上方修正されるなど、設備投資の回復に期待を抱かせる内容。輸出受注(同+0.6%)が緩やかな増勢を維持するなか、出遅れていた国内受注(同+5.3%)が輸送機械を中心に大幅な増加に転じたことが、回復を牽引した。ただ、業界統計によれば11月の自動車生産は再び前年割れ、企業のマインド統計も区々で(11月のI f oが7ヶ月振りに改善した一方で、同月の製造業PMIが50未満に再転落)、受注統計が示唆する企業部門の回復が持続的な動きとなるかは予断を許さない。



出所：ドイツ経済技術省



出所：ドイツ連邦統計局

■ ドイツの鉱工業生産 (季節調整済み、前期<月>比、%)

	2013				2014									
	4Q	1Q	2Q	3Q	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
鉱工業生産	0.6	1.1	-1.2	-0.3	0.3	-0.7	0.0	-1.4	0.5	1.0	-2.3	1.1	0.2	
製造業・鉱業	1.1	1.0	-0.7	-0.3	0.5	-0.4	0.2	-1.4	0.3	1.6	-3.1	1.2	0.2	
中間財	1.6	0.9	-1.0	-0.8	0.9	-0.7	0.7	-2.3	0.3	0.8	-1.5	0.0	0.8	
資本財	0.6	1.0	-0.5	0.2	0.1	-0.3	-0.6	0.4	-0.2	3.1	-5.8	3.4	-0.4	
消費財	1.2	0.9	-0.4	-0.6	0.1	0.4	1.0	-3.4	1.9	-0.2	0.0	-1.5	0.5	
耐久財	-1.6	1.8	-0.7	-1.6	2.8	0.9	-2.1	-1.1	2.2	-0.4	-3.4	0.0	0.6	
非耐久財	1.8	0.6	-0.3	-0.4	-0.5	0.3	1.7	-3.8	1.8	-0.1	0.7	-1.7	0.5	
エネルギー	-2.8	-2.8	0.1	-0.9	-2.9	1.3	-0.2	0.5	0.1	-4.6	4.0	2.7	-1.1	
建設	-0.6	4.6	-5.0	-0.1	1.8	-4.3	-0.9	-3.4	1.4	1.0	-0.9	-0.8	1.4	

出所：ドイツ経済技術省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。